

# 平成30年度学校自己評価システムシート (県立所沢特別支援学校)

目指す学校像	子どもの立場に立ち 良さを見つけ 可能性を広げる学校
--------	----------------------------

重点目標	1 PDCAサイクルを機能させて学校全体の組織力を高め、教育力を一層向上させる。 2 カリキュラム・マネジメントを推進し、その時々の本校教育の現状と課題解決に向けた取り組みを通して、社会に開かれた教育課程づくりに努める。 3 本校の特徴的な教育実践及び外部機関との連携のノウハウを、市内小・中学校等、地域に発信する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日現在)			実 施 日 平 成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「各学部段階での『育てたい力』」(試案)について、内容の妥当性と学校教育目標、学部目標等との整合性を協議し、さらに改善をすすめる必要がある。</li> <li>昨年度、会議時間の短縮、学部行事の精選等を行った。今年度は更に効率性と実効性を重視したPDCAサイクルを確立する必要がある。</li> </ul>	PDCAサイクルを意識し、組織力と教育力の向上をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校教育目標、目指す学校像、学部教育目標等をふまえ、「各学部段階での『育てたい力』」(試案)の検証、改善を行う。</li> <li>② 学校自己評価システムシート、分掌等活動計画、学部主事の担外化等を活用し、目標の連鎖、評価・達成を確認しながら、更に改善の取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学部教育目標等と「各学部段階での『育てたい力』」(試案)の妥当性と整合性を検証し、改善がはかれたか。</li> <li>② 教育力の向上に向けて、常にPDCAを意識し、効率的な学部等校内組織運営により新たな課題の発見や解決ができたか。</li> </ul>					
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>プランB評価サイクルの2期化、太田ステージ評価サイクルとの連動等をふまえ、プランABに関わるPDCAサイクルを拡充する必要がある。</li> <li>年間指導計画に関する研修・協議等を通じ本校のカリキュラム・マネジメントを確立するにあたり、教育課程の基礎単位としての単元に関する共通理解を図る必要がある。</li> </ul>	太田ステージ評価のプランABへの反映、単元指導計画の改善等を通じ、本校としてのカリキュラム・マネジメントを確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 太田ステージ評価の研修、特別非常勤講師によるモデルケースへの助言等を活用し、プランABの記述に太田ステージ評価を反映させる。</li> <li>② 単元指導計画に関する研修・協議等を活用し教育課程全般の改善をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新転任者も含め、発達段階評価に関する共通理解が形成でき、プランABの作成・評価に反映できたか。</li> <li>② 単元指導計画に関する共通理解が形成でき、年間指導計画に関するPDCAが次期の教育課程の改善につながったか。</li> </ul>					
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座の内容は本校の実践と関連が深く、外部からの評価も高い。この到達点をふまえ、本校の実践を意識的に発信し、その評価を実践の改善に反映させる必要がある。</li> <li>外部機関、外部専門家と連携した校内支援が定着しつつある。これを多様化傾向にある地域支援にも、より効果的に活用する必要がある。</li> </ul>	本校の実践内容を小中学校等に積極的に発信すると共に、外部機関、外部専門家との連携を一層進め、地域支援にも活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 公開講座の企画にあたっては、本校の実践課題との関連を重視すると共に、本校の実践紹介を組み込んだものも実施する。</li> <li>② 外部機関、外部専門家の活用のノウハウを多様化する地域支援に積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 公開講座の内容に、本校の実践課題が反映され、実践の発信がなされたか。</li> <li>② 地域支援において、外部専門家や外部機関を活用できたか。</li> </ul>					